

さい帯血保管 14万人分

ステムセル研究所など

倍増へ施設増強

整水器メーカー日本トリム子会社で、将来の病気に備えた「さい帯血バンク」を運営するステムセル研究所（東京）は6月、産業ガス大手の岩谷産業と共同で、さい帯血を長期保管する施設を増強する。保管可能な検体の数は既存の施設と合わせて現在の7万人分から14万人分に倍増する。総投資額は3億円。

へその緒（さい帯）や胎

盤から採取するさい帯血は、国内外で研究が進む再生医療で利用されている。糖尿病や脳性マヒ、自閉症で臨床試験が進むなど実用化への期待が高まっており、さい帯血を長期保管する人が増えている。

6月に稼働する新しい保管施設は、横浜市緑区の既存施設と同じビル内に整備した。マイナス190度前後の超低温を維持する保存

用のタンクや、冷却用の液体窒素を自動的に供給する装置などを備える。岩谷産業は設備の施工を担当し、液体窒素も供給する。

保管設備の増強に伴い4月には、さい帯血に加えて、再生医療用にさい帯を保管するサービスを日本で初めて始めた。さらに6月から、不妊治療向けに卵子の保管も始める。

ステムセル研究所は19



ステムセル研究所が新設したさい帯血の保管施設（横浜市緑区）

99年の設立で、2013年に日本トリムが子会社化した。さい帯血の保管実績は4月末時点で約6万人。日本市場の占有率は99・9%に達する。